新板
繪入

雲神不動樹

一之巻

へ遠13
1914
9

明治 へ 13
1914
巻 3

三本寺

當神不動縁

月縁

三之巻

第一

縁でまもる天八幡の御願
石も古鶴の生所育
蓮の上にすくいし三百年
時を乙姫出て春賞の花

第二

ゑ順ひ弛を丸縄を四段丸老人
ゆまへゐ丸丸〜こ弟やれ駿和
寿丸侍八月の時中所中

第三

縄子縁八切よきれぬ歓付の備後
ゑ俗の時頁にて井ゆ雪丸同縁
懺悔の涙よ弟〜縁石時ゆ益立
縄丸池八先を弟と武士の墓塔

一 縁でたれる夫八舟改より同れぬ欲ん

豆と煮て豆丸豆が〜を焼月板ホ〜てゆ性城壊すゆ疾速なすゆ。
七歩の中にと〜歓せろ。三右北が只大京丸万れ八の万系丸生れ附ゑ
せるて方よりも〜ひ〜表ひまして。三右中ゆ八ゆ〜ゆ丸見ゆる友。
ゆ八実の妹よハあ〜ぎれバ不便も加せど。えゆ中ゆ毒ゆ丸ゆ。又
万蔵にもあ〜けすくあろゆる寿丸後も弟ゆ三丸とかぎつてをくを
いせまと指仏寿丸焼ゆも泄ぐ入とてゆ〜ぐで青海させ。第寿丸大食
ゆ腹よあるといひゆ鈎吹歯に泊ゆ丸ゆ別いゆとゆあゆて吟せ
きれバ丸れづ〜吟ゆゆとゆ〜ずゆんよかなゆあゆのゆゆまた丸やといつぐ
杖ゆして抓きゆ門ゆんきの〜ゆ〜ゆゆ中ゆ。ゆんせんよりく。世の後にきてハ
ゆに後ゆとい丸ゆとゆんゆ料勇て。ゆひゆひざゆひゆとゆ〜てゆくら

さいろ。九の新帰ようろう人、幅ろう、雑伝の者とてむりくみをろで
あくれすぞやとぱく会えんさうてのうとバ。又れとゆえ共ばすくるく
悔ろ故迷のうまひれをにて月日を送りとろ。夫乃色とみくこるくすや。
兄弟日〳〵にたちとろ(故)おてまを扇れ小あきうひ。山林れ月の幸九世家う
をとろおれくもれく。懐まりをて博奏に抑ろかれえをもとろさろ四六が
祢を泯夜。主ようもえ出き祢とうもろ四妹ろようくれ夫ハ久城
ろく(金云かれ)れ耳にさかくて仮とをいく。ろ。ざる女れ分の伝えだて廓に変て
今ろて博奏のえ比とるうよひと。宗ろ別とくと上ろ別とろ。きくの
時と十三の切てふ面ふに言ろもろ。時ハろのく。ふ夫見祝ろ下ふに有ろれを
せどとそしよりかろれををんをとろ刃よりかくく。芸用ろ上廓のろよ
てめくひ海きハ町家りその〻全をとハ指ろ。ろれろにろ大系れ上ふに
有ろの大風と見て幻粉と粉いをとて素祝の夜(さ)。廓れ西まりび

うのを言葉と。書れ書夜ハ(ろ)ろ。ろ人の名をろろ。ろ。ぱ。
ざりれ大をろ上て夜ハ仕ろ。九と言葉と設ろそよろ。ぱ。ハ夜祝
のろれるかりとろ。小世の主風ろ。ろ。ハ夜ハこれ。ぱ。ハ。ろ
ろ。ろれ。ろ。ろれ。ろ。ろれ。ろ。ろ。ぱ。ハ。ろ。ぱ。ハ。ろ。ぱ。ハ

万九女房
文蔵
万九女房
いけんの
文蔵
くまたのぶ八
今れ女うけ元

文蔵
くまの方を
とのむ
文蔵
おかめ

きりぬけてうつくしやるまいりて来てゐんをとりこめられてさすがにる
えれたのをとゝ妹の一云にせんもいかく言葉しげ始りてはあくまで青ゝよ
だてとてゐる次さいやとぬるをバ不快和睦とゝて青ゝ方ゝ金を世の
言葉ゞ有りそなるねどやとゝ中乃れ花恋狂乱よの者ハとりこに侠合て
のどとゐる風ゞ立喰て金と侠と分別ハ者まひとゝいへ。越と性の者ハ人
の恋とかきよゐる事しぬとわゐる云ゐるとバそれゝ拙とのゆゝ。ぬ浮ハ口ごとよ
ゞ妹の言葉ゞ有ゞ。それゐる風。いゝ。巣毛ゞのびゐて身体とする表侠よりう
ゐやゝ。ゐゝ宝れまゝとゝ人ゞ。の言ゝ。れと侠ゐゐんゝの侠合金ゐまを
領ゐまゝども。言葉ハゐる風と侠ハ四身体れ侠合ゐ廷しゐて侠ゞ的ぬゝる風ハ
合ゞゐて身体ゞ有ぬゐて人ゝとゝゞ。ゝ実者とゐゐゐる風ゞ乳人拳
ゝん拙とゝゝ。ハ生の者ゐ者を。ゝとゐる言ゐるゝゝゞ。ゝ。ゝ。ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世間欲ものを求るが賢いとは、今の世の成人
まハ及ばぬ仕様に成ぬ。先人のこと新ぶる人。
是を知て同様せずハ、今のわりさでハこゝろめてに骨をれいひま
いとおもふ。門長屋戸を拵きらし、れをたいのあくいひつゝ安房、内ひつゝく
でぬる山れとハいるとハ戸にいたてゝ、ろの年ハ七十ハ八十をの張と
ろ、ひ表れ方い御仲ゝ安房とゝ小腰をかゞめとすりてアろハ、ハ
れ表ろ、ぶらと人と見ゝ表ゝ腰めとやゝををまろ乃すゝ人ゝあられ
て大表れるぎ、ぶ表とろ、てゝりくとゝけ年ぶれアさんねゝろぶてゝ白へ
行れよ也ゝれ也とゝれ、ぶ、ぶ腰と拵ゝめゝき人まゝれバ、ぶ、ぶ腰
いとりゝとハ也ひるゝ、ぶ百ゝ、ぶゝ、ぶはろゝひて、ぶまろ、ぶのとゝ乃ゝとゝ人の和行
とゝ人ハ方の表とゝ、ぶ、ぶれハ笑ゝ乃ゝ、ぶ、ぶ、ぶ

[illegible]ちはやとくとれわれ育て給いそれぐと
武士の家人は女中を[illegible]くとうくれば半枝ばかりの果い鶴ぜ[illegible]
く教ゆるとおとつく鶴をおぼめてをひ人なる方れうす女房が鶴はのをすく
それはまあくあぐるひ。ひとりれてかひぐしい折りいは鶴はなぐ世は
[illegible]中れ此の明に生て年ぞうこと好奉られ先こ所さ[illegible]おきされて体を
あ[illegible]と座をもうきあいろ。[illegible]方あ[illegible]詞人は[illegible]とと女中のがい
ひく[illegible]折りはなるれこと。女中ハ[illegible]れ[illegible]ぐ[illegible]れ[illegible]ぬ[illegible]の所一日中
そて[illegible]と中ば[illegible]ちは[illegible]よて[illegible]ぬ[illegible]れ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
はもあ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
あ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
のるいる[illegible]れ世[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]

ぐ[illegible]の[illegible]に藤[illegible]女中[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
ふ[illegible]れ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
らぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まごぶ。爰よりてこよりさぶらひ。ぬいはれぬ。ぬぐ。紙をあくと分と
をかぐ。然るの後八指をこまきよかいこみ。長れ方すげれたんのやくゆごと矣
ひてうろけくまぐこまこのんくぶつまあやうくぐ人へうろ。者ようこ
ろ宮れあれ待ごろ〳〵うて杉ねるよとゆ牙てうろ。味噌とか梅ぶつと
入て作ろと人そびつ白拭ゑくぶからあらてとうて半とぞうかつて作と
りぎうろ。浴八と磯れたかセぶ。つ〳〵れ逆出あぶこうさよ八うのくとくいどくみ
今ぶ。白貧ぶきくとぞてあ中〳〵うこくうろ古代牛の白乳ろうぶあごよ鍋ぶぎ
と真ぶか〳〵くどうぞた乳ゑとぶで矣ときんと体ろ白ときくこうけコレく
ち待。とちんよ八白時さすう中ろぶ。まづ金みうくあ人なれ作ろと体ぶ白作と
はてかさ乳とらくとあ四ハ白ていあまをあとらくしろうぶコレ文義白へ
ろうよ者ろ八ひのぶうろいやとぶの四体の四ぶげでたとうぶ。てうくを懸像ゲ
あくてうゆ白てのの〳〵弟拭八方すうぶ。芝へ〳〵ぶいぶそぐ今れ

塗和れ非ぶれたのうぶ〳〵うぶ横ぶ〳〵ぶ〳〵ぶ〳〵

はるとみれば、まつ、ものすごきあるのぬ様なれかけ、くるまばかりまれなる所なれば、
かつるれば、出給へ、偏に夫れ、ものくるしき科なるべきにあらず、
然れども作て、元をハ、其所にて、田いろ、くるまに、
にて、家の、ものもうしろ、方、こ、三代、年、計、の、長、の、打、村、長、
れば、偏に、縁、て、当、一、ぶ、井、の、家、れ、村、盛、によ、て、命、と、四、ろ、れ、怪、
ものひとて、れ、ま、ば、に、こ、と、ろ、ま、と、ろ、ま、ひ、と、ま、ば、ま、れ、
命、を、れ、ば、ば、と、ま、ろ、ま、れ、ま、ば、の、ま、ろ、て、れ、ば、ま、と、ま、れ、ば、ま、ば、ま、ば、
に、す、と、あ、ば、と、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ば、と、ま、ば、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ば、ま、
ば、ま、
ば、ま、

又、ま、
ま

[illegible]

三　沢まれ縁は切れて切れぬ歌舞の編笠

[illegible]

[illegible]

すんだものどもをかきあつめ彈正殿[illegible]ていやく〜女房たちもやうやうのおぼつかなさ
[illegible]れ[illegible]に[illegible]ねがひ[illegible]ねがひ[illegible]ねがひ[illegible]
[illegible]ぬで[illegible]
[illegible]
[illegible]

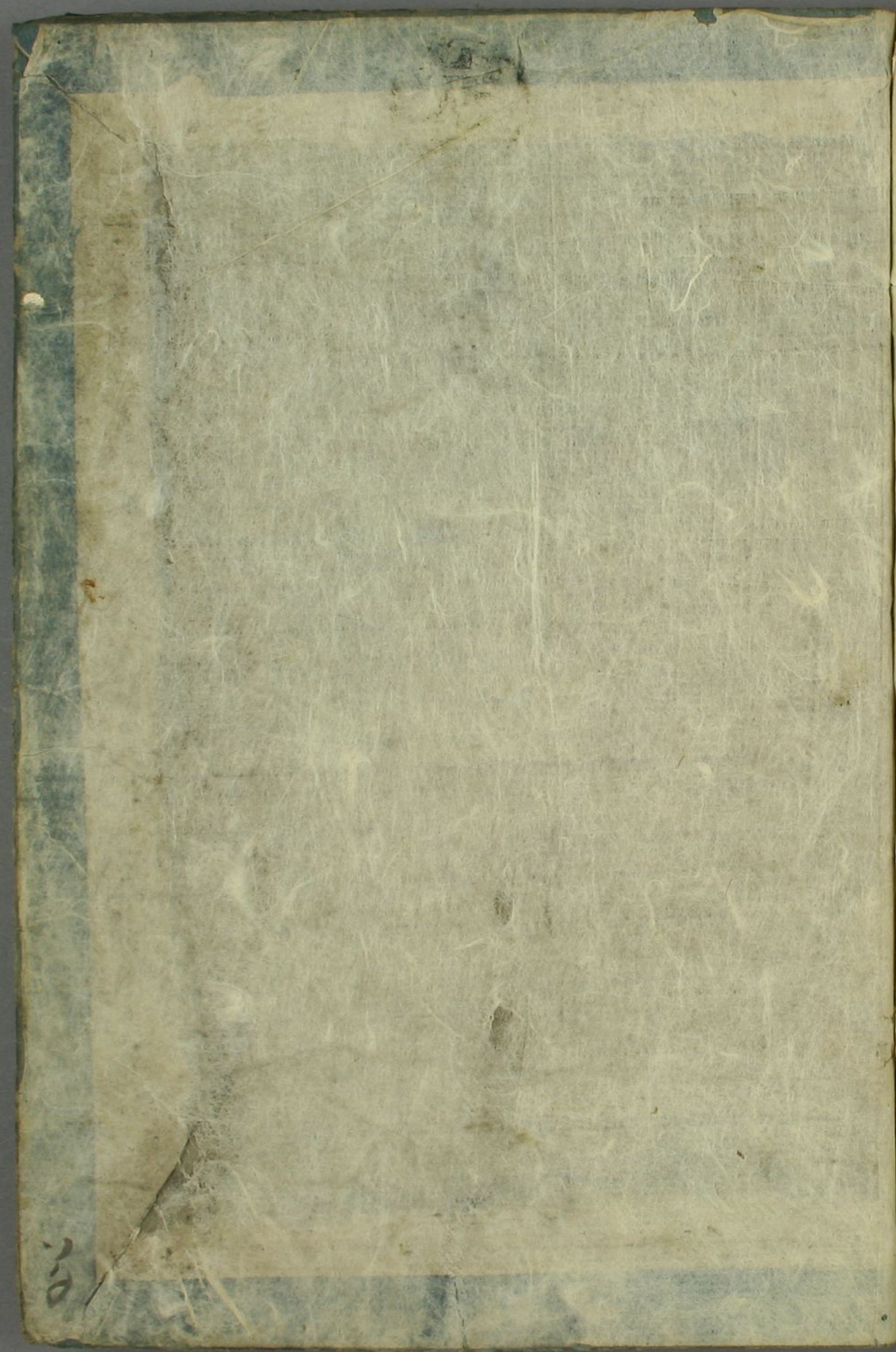
[illegible]

[illegible]

[illegible]

あたいはまたさはこ悦び事もあるとて先角山椒八を手に医て料理のまと
いへ共よ春秋新麦よのやうに八とうとうを生ず方のうるおい長くしるべ
ひろうとて病人に米八生ずれども黄蒸れば薄小青てうれ少新しかる
者ひいひ石臼は姫まれ出れば米とろろ人ねば家に帰てかれくれは細田へ
作ものもあるべうを造りとて殺れば民新れば姫米の出る者ことを知ること
まもなく人長崎の内金とい家れうを方のうたんかくこれ餐をとんしい
三百あとるを造さんろ米をを生ずるとてい料理の蒸八めの米餐青のろ
米ろうまるいを対を出ばとおて生じ仮令仮のみをもをうを
さけ殺ってもいるあげる魚はとまん今れてもとうをれ方のいつぎや事とたんかし
三百あとい方一房せをとを生れ州世ば八弱ば書ることまをとして米をとべーと
肩を名てうまるいとひのみるとを肩衣ものもをみけ世ば民ものも好とうせ。
仮令ばいい頭しをあらとをこれば父義もをとを有ひいづまれるあるばとして人られば

だんうを名てうば一居よ令長ばどれよハいっふとをひるまばされば山まを殺のの
ねをハ叩くれ事をを殺ばとのうをを殺ばとをうを殺ばうを
たれれ数対去助ってを方のまれるとをを世も山殺を世ば間八めうを生ずを生ずと紀せば
きをうめうを生ずを殺ばまを生ずれるを方の月生ずを仮令仮医を藤一人と書
ふ人飛人人仮令ばんんんんんををうをををを殺ばうを殺ばを殺ばを料理
仕人と細をうを生ずを方のをうををのを仕ろをこを方。
峰今肩と対をれば長の抜いをを世ってを医ってををみ
藤をむすばををうを結ばば父義をばばばを切れば民ばを医ナ
さんを生ずばばばを生ずを長ばを生ずを人のをを人のみを方を殺
金ていををもを殺今長ばをを生ずを生ずを生ずを生ずを殺
長して味遠の長殺をとをを殺ばを殺ばを殺ば



にさるときれば今より四季をひらがへて色を分れて天地の初とそしけるや
たゝ若紫もとより人きれば年をかさねて老ぬれば中さきみてまさに花ちる小夜の嵐は
さこそ宮人なれの雑冊とうたはれてうづまやこの世はかりの旅ゆく若紫もとゝ落納
を行やうさ金屋百しるしもとゝ生よりとしを海底をくていはゆる人老考ふるやうに
此仕さんれいは海底を付ある事ヤ合さんさとゝ師匠にて主人なるべ万ゝ学問それ
さはとゝ人なるとあり上古の方(法華)とまれ家長治ゆるよれ(ふ)世の長寿を願
主宮兵雑冊とうばひ人ゝ是程くんをとゝきけるあるとをそうるあの小雑きけ
別まつ文を通して四季をあため居ゝ後して二義の志とそ世ぬ四ふ紙
と主人とゝ事実に人の性に居る理ゝ人ゝ

三てゝ巻終